

W-PASS Eddy-Covariance Workshop

大気－海洋間のエネルギー・物質循環の解明に海面フラックスの評価が不可欠であるが、陸面観測では世界標準となっている「渦相関法；Eddy-Covariance」の海面への応用はまだまだ進んでいない。また二酸化炭素フラックスの評価については、渦相関法と従来の方法との間に大きな差が報告されている。このワークショップでは主に物質循環の観点で、海面での渦相関法測定の現状と精度評価、問題点、今後の展開などについて議論する。

2008年3月12日(水) 10時から17時； 東京大学海洋研究所 大講義室(A棟1階)

プログラム 各30分 (20分+10分)

1. 塚本 修(岡山大学) 趣旨・背景説明
2. Frank Griessbaum (University of Muenster)
「Flow distortion at R/V Mirai and Hakuho and particle flux measurement」
3. 塚本 修(岡山大学)
「Intercomparison of on-board eddy flux system in MR06-04」
4. 永尾一平(名古屋大学)・近藤文義(岡山大学)
「MR07-04における大気・海水 DMS 濃度分布と大気への DMS 放出量の測定」
5. 田阪茂樹 (岐阜大学) <10分+5分>
「MR07-04における大気海洋間ラドンフラックスの測定」
(昼食)
6. 近藤文義(岡山大学)
「乱流変動法による二酸化炭素の海面乱流フラックス」
7. 間野正美 (農業環境技術研究所)
「渦相関法で測定した CO₂ フラックスの誤差」
8. 小野圭介 (農業環境技術研究所)
「オープンパス型とクローズドパス型の渦相関法による CO₂ フラックスの比較」
9. 岩田 徹・塚本 修(岡山大学)
「MR06-04 (北極海・ベーリング海東部)における CO₂ フラックス」
ープロファイル法 VS 渦相関法ー
10. 村田昌彦 (海洋研究開発機構)
「ベーリング海南東部大陸棚における大気海洋間 CO₂ フラックス」
11. 響田邦夫 (東海大学)・根田昌典 (京都大学)・久保田雅久 (東海大学)
「海面フラックス評価の現状および課題と中緯度海域における大気－海洋相互作用」
12. 今後の計画・総合討論
終了後、懇親会予定

W-PASS (Western Pacific Air-Sea interaction Study)

<http://w-pass.solas.jp/>